

備後

教区報

第 135 号

bingo kyokuhu

CONTENTS

- ◇大遠忌ニュースフラッシュ
- ◇クローズアップ備後
- ◇坊守探訪 世羅組 照明寺
- ◇連続講座
- 「同朋三者懇の研究」報告
- ◇NEWS&活動情報
- ◇予報・インフォメーション





「まず、宗祖親鸞聖人のご廟に ^{ひざまず} 跪いて、ご往生になったという事実から、ご生涯を偲び、本願寺の起源を確かめつつ、本願寺での大遠忌をお迎えする」。10月12日から16日まで大谷本廟で営まれた「親鸞聖人750回大遠忌法要」でご門主さまは1年余に迫った本山での大遠忌法要をお迎えするお心を表白され、いよいよ遠忌ムードが高まってきた。こうした中、中国ブロックの記念事業が広島市で行われ、教区内でもお待ち受け行事や法要が行われるなど、盛り上がりを見せるようになってきた。



大遠忌

News flash

大谷本廟での大遠忌法要



▲明著堂へ向かう出勤者



10月12日から16日までの法要期間中、全国から1万6000人の門信徒らが参拝。各地から出勤した列衆、讃嘆衆は延べ830人。この中には備後教区からも僧侶の出勤や門信徒の参拝があった。また、華やかな衣装を着た稚児たちが参列してお花を供えた。

教区内からも出勤

中国ブロック記念事業 広島別院で

山口、安芸、山陰に加え備後教区の4教区合同で行う「親鸞聖人750回大遠忌 中国ブロック記念事業」が10月17日、広島別院で行われた。内容は「生きものはいのちのつながりの中に」と題して、日本人最初の宇宙飛行士の秋山豊寛氏の講演と各教区選出のパネラーによる「いのちのつながり」の集いをテーマにシンポジウムを開催した。備後教区からは比婆組勝光寺の坊守・渡辺蓉子さんがパネラーとして参加。以下、渡辺さんに感想をレポートしてもらった。



▲本願寺の「常灯明」(正面左)を置いて行われたシンポジウム



▶パネラーとして参加した渡辺蓉子坊守



▶秋山豊寛氏

生きものは いのちの つながりの中に

真宗の立場から明らかにし、「いのちのつながり」への目覚めと新たな一歩にしようと企画されたようであります。

シンポジウムのコーディネーターは安芸教区佐伯奥組の吉崎哲真住職様でした。軽妙な語り口でパネラーの心を和ませていただき、会場の雰囲気盛り上げて下さいました。特に過疎地に暮らしていらつしやることから、その意識が強く、過疎の悩みや反対に人口は多くてもご法義の「過疎化」に心を痛めておられるようでした。今後は新たな共同体のようなものの必要性も感じておられるようでした。

新たな一歩へのスタート

今回のシンポジウムの開催趣旨は、宗教のもつ本来の願いや役割が見えなくなっている現代社会において、現代がかかえる様々な問題に取り組みきつかけとしようというもの。「いのちの根源」を考へることによって「今をどう生きるのか」ということを仏教、浄土

ご門徒さんと一緒に

過疎に関しては山陰教区大森組浄福寺住職の高津眞吾さんのご意見に引き寄せられました。ご門徒さんと共に薩摩芋作りを始められた方でもあります。ご意見では、お寺は過疎地にあるけれども、周辺の寺院は過密状態。今、まさに農家が消滅しようとしている中で「私は少人数で土を護っている皆さんが日本の宝だ」と強調されました。田舎がつぶれると都会もつぶれる。支えているのは農業である。また、親鸞聖人の関東時代には、共に農民と汗を流された。これまで多くの農家が本山を支えてきたし、本山参りによってお念仏を相続してきた。「土を愛し、ご法義を伝えていきたい」との趣旨で語られました。

お寺への思いを告白

また、シンガーソングライターとしても活躍の山口教区島本組莊厳寺副住職の白鳥あきさんはお寺の重みを背負いたくなく、一時お寺を離れた思いを素直に告白され、再びお寺に帰ったことにより、周囲やふるさとの人びとに支

えられジャム作りも始めた経緯を語られました。そして、今はこのジャム作りや歌を通じてご法義を伝えたいとお気持ちのようでした。

唯一、ご門徒の立場から参加された安芸教区安芸北組龍仙寺門徒で中国新聞副社長の山本一隆さんは、安芸の僧侶の方々との出会いのなかで宗教観を大切にするようになったお心など語られました。

つながりを生み出すもの

そこで、私は餓鬼・畜生化しつつある今の社会で、私のできる伝道を考えて時、児童の大切さに気づきました。そこで、小学校のボランティアを思いつき、地域の人々とすすめているボランティア活動について話をさせて頂きました。特に「食といのち」について、子ども達に人間は多くの生きものの「いのち」により生かされていることを話します。こうした児童、地域の人々とかかわりの中に「いのち」と「いのち」のつながりを生み出すことができると思っています。

講師の日本人初の宇宙飛行士である秋山豊寛さんは、前から知人

であつたかのごとく親しく話して下さいました。さすがに宇宙規模で物事を考えることの大切さを学ばせて頂いたように思います。いづれにしても、親鸞聖人750回大遠忌をご縁としてこうした幅広い方々のご縁ができましたことを喜ばせて頂きますと共に、今後足元から「いのちといのちのつながり」を大切にしていきたいと、自覚をあらたにしたことであります。



組お待ち受け法要より

「世のなか安穏なれ ―響け念仏 届けよこころ―」

三谿組(亀山曠珠組長)では10月10日三次市甲奴町法専寺(加藤哲真住職)を会場に、親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要が勤修された。この法要の特徴は帰敬式の受式を世代を超えて呼びかけたこと。さかのぼると、行事企画の段階で、帰敬式と法要と記念講演の三本立てで行うことは最初に決まったが、帰敬式については、本山参拝で受式される方も多い中、どういうコンセプトで募集するのがよいかと戸惑いがあった。

た。そんな中、会場寺院となる加藤哲真住職が、「ご本山参拝の帰敬式は、自分一人が受けることになるが、今回は近い会場なので世代を超えて家族での受式を勧めてはどうだろうか。例えばおじいちゃんや孫を連れてとか、親子で一緒に受式できる機会は今回ならではのだろう。また、門徒から声があるので、できれば稚児も出仕させたい」と提案があった。

▶組ならではの親子での帰敬式が実現した

この案に沿った「世代を超えて浄土に生まれるいのちの名前」法名をいただきます」との呼びかけに、当日は未成年6名含む帰敬式受式者67人、法要への稚児出仕24名を含め多くの人びとが世代を超えて参集した。

午前中は、本山会行事ご出講に





続いて上山大峻先生(前教学伝道研究センター所長)による記念講演「私の生きる道」。上山先生は金子みすゞの詩を引用され、「いのちはみんなちがってみんないい。自力の道では、目

家族を通して伝えられる

よる帰敬式。3歳の幼児から86歳の年配者までそろっておかみそりをいただいた。
午後は法要。まず、組内各仏壮・仏婦代表が献灯、献華、献香、お仏飯をお供えをし、続いて組内全法中が集って「宗祖讃仰作法」音楽法要を勤めた。和讃が唱えられる中、法中に混じって、稚児らも内陣を行堂し、仏徳を讃えた。



標に到達できないいのちがふるい落とされる。法然聖人、そして親鸞聖人はここに気づいて、すべてが平等に救われる道を明らかにされた。それは身をもつて伝わる。たとえば、おばあちゃんが掃除をしながら這っている虫をよける。そのすべてのいのちを平等に尊ぶ姿勢が孫のいのちを育てていくのです」と家族を通して伝わる帰すべき道を示された。
当日は天気にも恵まれ、この数年をかけ門徒が手作業で整備した

法専寺境内に、子どもたちの声も大人の声も混じり響いていた。世代を超えて同じ阿弥陀如来さまの前に手を合わせ、いのちよろこぶ一日となった。「この行事がお寺の新たな出発です」と加藤住職の思いが将来へ向かっていくようであった。

ナナハン西遊記

法灯をお寺や我が家に

去る10月11日、中国ブロック記念事業のひとつである「ナナハン西遊記」の結団式が本願寺広島別院で行われた。別院には原付から大型まで、たくさんバイクが集合し境内を埋め尽くした。2日間かけて本願寺の常灯明をいただきにいくのである。17台のバイクで編成するキャラバン隊が京都へ向けて出発。途中休憩を取りながら暮れた夜であった。翌12日の晨朝参拝後には、分灯式が行われ記念撮影、その後広島へ。夕方、一人も欠けることなく別院に戻ってきた



▲中国ブロックより集結したキャラバン隊

「勇士」らは安堵の笑顔を浮かべていた。

その後は、この「法灯」を10月17日のシンポジウムで点火、各教務所へ分灯された。この常灯明は今後、2010年3月末日まで希望者へ分灯していく。

ご希望の方は必要とする日から最低で1週間前までにご連絡ください。また、法灯を持ち運びできる白金カイトやランプは各自でご用意ください。その他ご不明な点は教務所まで。

Close-Up-Bingo

第55回中・四国地区 仏教婦人会(若婦人)大会を開催

10月24日(土)～25日(日)、第55回中四国地区仏教婦人会(若婦人)大会が大谷範子総裁さまご臨席のもと開催された。会場は御調東組照源寺(久本晃道住職)。仏婦大会の歴史を振り返ると昭和33年に第6回中国地区仏青・仏婦大会が照源寺を会場に開催されている。若い人がお寺に集まらないという悩みを抱えるなか、51年振りに照源寺で開催された二日間を追った。(文責・教区報専門委)

平均年齢39歳

今回の大会では参加者を45歳以下の門信徒の女性にしばった。備後では「ほほえみの会」や各教区の協力により、合計115名の若婦人が集い、平均年齢は39歳という文字通り若婦のつどいとなった。

大会テーマは「連々つながり」。開会式ではたくさんの子どもの手で仏前にお花をお供えし、お母さんと一緒に「重誓偈」が勤められた。挨拶で大会長の宮川宏生教務所長は、「人と人とのつながりが失われつつある現代だからこそ、いつでも、どこでも見ていてくださる阿弥陀さまのお慈悲にであうお寺での尊いご縁とつなが

りを大事にしてもらいたい」と大会テーマについて述べた。

たくさん企画を通して

初日は開会式の後、藤井那磨先生よりユーモアあふれるご法話があり、続けて班別話し合い「みんなで話そう」の後、まとめの話となった。その後、宿泊場所の尾道国際ホテルへと会場を移し、「みんなでディナー」をして1日目を終了(お子さんには、尾道ラーメンが人気だったとか)。2日目、ホテルから移動し、照源寺本堂前で、クレイン車を使って、上空から記念撮影。朝のお勤めでも、お子さんと一緒に「らいはいのうた」が勤められた。その後、4つのグ

ループワークがそれぞれの場所に分かれおこなわれた。グループは左記の通り。

「A 子育てセミナー(藤本明美先生)」「B はじめての浄土真宗(仏事・作法)」「C もっと知りたい浄土真宗の教え(藤井那磨先生)」「D 若婦人中央研修受講者のつどい」

また、このたびは新しい企画として、キッズコーナーが用意され、小さいお子さんのおられる方にも安心して大会に参加してもらえるように様々な配慮がなされていた。

1歳未満の乳幼児も多数おられ、手伝いの会員が一人一人お世話したり、参加者の子ども45名を飽きさせないように、遊具や餅つきなど、たくさんさんの企画や工夫がされてあった。

最後に参加者より「このような若婦人の集まりを作りたい」「自分自身を改めて気付かせてもらえたご縁でした」などなど、たくさん

んの感想が述べられ、盛会のうちに次回の四国教区へ引き継がれた。



連研のための研究会

内田中央講師がアンケートを分析

2009(平成21)年度の「連研のための研究会」が9月14日、本願寺備後会館で開かれた。テーマは「連研推進へ向けて」で講師は内田正祥・連研中央講師。同講師は教区基推の門信徒部会(小島照行部長)が行った教区連研開催アンケートにそって分析しアドバイス。以下、その概要をまとめた。(文責・門信徒部会)

「同朋運動僧侶研修」は100%

- (1) 組基幹運動の現状(2008年度『宗報6月号』より) ①連研開催率は全国が53.3組中29.5組開催で55%。備後教区は16組中12組で75%と高い。
- ② 門徒推進員連絡協議会は全国が160組で30%の開催率。備後教区は3組で19%と低い。
- ③ 門信徒会運動研修協議会開催率は全国が34.2組で64%。備後教区は9組で56%。
- ④ 同朋運動推進僧侶研修会開催率は全国44.9組で84%。備後教区は100%となっている。

参加寺院の多さに驚き

- (2) 備後教区「組連研」アンケート結果より。

「組連研アンケートから」

- ① 開催期数の比較的多い組と昼間開始の組は女性の参加者の割合が高い。
- ② 金曜日夜、土日に開催している組は、開催日を僧侶中心ではなく、参加者に考慮していると考えられる。
- ③ 会費なしが3組あるが、その他は一回あたりの平均が500円前後。
- ④ 組連研への参加寺院数が多いのは全国的に素晴らしい。
- 183ヶ寺院中 130ヶ寺院で71%である。
- ⑤ 年齢制限をしているのは4組で69%は制限していない。参加者確保の意味などにもよるが、今後の検討課題となろう。

- ⑥ 中央教修の奨励は11組。費用援助をしている組もある。

- ⑦ 班別の話し合いをしていない組も2組。

- ⑧ 16組中10組で52人の門徒推進員が誕生。

- ⑨ テキストを独自に作成している組が9組もある。

- ⑩ 2組で門徒さんがスタッフに入っている。

- ⑪ 話し合いに参加している僧侶ができるだけ発言を控え、門徒さんの発言を促している。以上を分析し、全体的には良好な形で連研が進んでいることを指摘した。

それぞれが工夫して開催

アンケートの集計からそれぞれが工夫していることも評価。主なものは次のようなものである。

「独自のテーマ設定」「年齢制限をせず」(備中里)「勤式指導のために共通の経本を使用」「レジュメ↓配布↓ファイリング」(鴨川)「正信偈を勉強」(鴨川北)「すべて〇」と私と題して、自らの仮題として受けてとめてもらう工夫」(芦田)「調声や発表は強要しない。気楽に参加できる雰囲気づくり」

(三谿)「一週間前の事前打ち合わせ。毎回、正信偈六首引を特別に選ぶ」(比婆)「アンケートをとり回答を返す。3回を1クルーで」(三次)「テーマを法中で話し合い」(御調東)「『連研だより』を発行し情報提供。テーマを設定せずに開催」(御調西)「妙好人を訪ねる研修旅行も」(世羅)。

連研に関する中央の現況報告では、年齢制限に関して、正式決定ではないが、撤廃の方向性があることも報告された。また、中央教修のありかたも検討中とのことである。

テキストに関しては『連研ノートE』(仮称)は年齢制限の撤廃、中央教修の日程の見直しなどを視野にいれて制作へ向けての作業部会が設置されたとの報告もあった。

▼中央が内田正祥連研中央講師



今、やっていることを
次世代に渡されるよう
頑張りたい

坊守探訪 VOL.26



世羅組 照明寺
菅 由貴 坊守

今回お訪ねしたのは、世羅組、照明寺・菅由貴坊守さんです。照明寺さんのある大和町は山陽自動車道久井インターチェンジから10^分ほど北に上がった静かな所にあります。広い境内地には樹齢400年という大きな「かやの木」があつて、お寺の歴史の深さを物語っています。(聞き手Ⅱ立神多恵香委員、長裕美委員)

皆さんに助けられて

立神多恵香委員 よろしくお願
いします。さて、坊守さんはど
ちらから嫁がれましたか。

菅由貴坊守 東広島市の八本松で
す。

委員 そうですか。八本松には
私の親戚もあるのですよ。今はハ
ワイに行っていますけど、戸島つ
て言うんです。

坊守 えっ、私はその人の里か
ら来ました。

委員 えー。じゃあ戸島さん
のお兄さんの娘さんですか。全然知
りませんでした。初めてお会いし
ましたね、よろしく。ところで、
坊守さんになられてからはどれく
らい経たれますか。

坊守 結婚した時すぐに坊守に
なりました。

委員 それは大変ですね。まだ
慣れないうちから坊守として勤め
ていくのはどうだったですか。

坊守 そうですね。結婚した時
すでに祖母は高齢でしたし、お姑
さんが居ないので、色々教えても
らう事が出来なかったですが、お
陰様でうちの場合は色んな行事の
お手伝いやお斎の準備など、仏婦

の会長さんと役員さんが皆さんに
声を掛けて取り仕切ってください
るので、その点では助かりました。

お斎でお参りも増えました

委員 お斎はいつ出されるので
すか。

坊守 今、年間10回の法座があ
りますが、全部の法座でお斎を出
します。

委員 全部ですか。年1回でも
大変なのに10回は多いですね。

坊守 以前は全てでは無かった
のですが、法座の時、朝席の後昼
食に帰られて、昼席に戻られない
方が一部居られましたので、じゃ
あお昼を食べてそのまま続けてお
参りしてもらってはどうか。と言
う事で結婚を機に食事を出すよう
にしたんです。お斎といつても永
代経や報恩講を除いて殆どの法座
はバラ寿司とお汁。とか、ご飯と
お汁と一品おかず。とか簡単なも
のですけど。

委員 お参りの方は増えました
か。

坊守 以前より増えましたね。
委員 大変だけど努力の甲斐があ
りましたね。他にはどんな行事
がありますか。

皆さんの温かい声が励みに



しい「お紐解き」という法座があります。

委員 「お紐解き」とはどういうことですか。

坊守 2月に行くのですが、年の初めに「御文章」のひもを解く、という意味で一年の始まりの法座です。

委員 そうですか。私は初めて聞きました。それにしても色んな行事が地域と密接していて理想的なお寺の在り方ですね。

坊守 このあたりは全てが真宗のご門徒さんなので、そういう意味では地域の方が一生懸命協力して下さってやりやすいと思いますね。

委員 坊守として15年。どうでしたか。

坊守 皆さんの期待が大きく

て、正直最初は戸惑う事もありましたが、とても親切に教えてもらって、最近ようやくひと息つけるようになりました。

次世代に受け継がれて

委員 そうですか。その中で何か嬉しかった事がありますか。

坊守 結婚して今の仏婦の会長さんで三代目になりますが、みなさんが未だに何か行事の前など「何か手伝う事ある」「一人で大変でしょ」と気に掛けて声をかけてくださることが、なんだか認められているようで嬉しいですね。それと今年はじめて庭掃除のお手伝いに子ども同級生の30代のお母さんが来てくれて、自分も年をとったと思う反面、若い世代に受け継がれていっている事が嬉しかったです。

委員 それは嬉しいですね。世代交代はなかなかスムーズに行かないですからね。最後にこれから抱負を聞かせて下さい。

坊守 今はまだ、毎日があつという間に終わってしまつて特に思

い浮かばないですが、結婚を機に始めた事が色々ありますので、今行っている事を続けていつて次の世代に渡す事が出来れば良いと思います。

委員 そうですね。続けて行くという事が本当は一番難しいのかもしれないですね。今日はありがとうございました。

〈取材を終えて〉

帰る時に、「何でも住職と相談して一緒にやってきたんです。」と話してくれた坊守さん。無我夢中で走り続けてきた日々の中で若い住職さんと2人、お互いを支え合いながら頑張っておられる姿に、心暖かくなるような時間でした。



連続講座「同朋三者懇の研究」報告

連続講座「同朋三者懇の研究」が、三回にわたり開催された。第一回は「業・宿業」、第二回は「往生と信心」、第三回「浄土」。それぞれ二名の委員が担当し、趣旨説明と概論、質疑応答を行なった。

業・宿業 についての以下通り。

最初の提起は季平恵海委員。「なぜ業論なのか」ということから「業論の重さ」について、委員の実体験などをまじえて問題提起いただいた。今後連続三回の研修会の総論のような内容。仏教の教えや、その教えを説く者として、「なぜ同朋運動なのか」を問いかけるもので、委員の静かな語りかけの中に、厳しい責務を感じずにはおれない、荷の重い内容であった。是非多くの方にお聞きいただきたい内容であったと思う。

続いて小武正教委員の提起。水平社から本願寺教団へ突き付けら

れた「前世の業」の問題から、經典の「施陀羅問題」など、今まで積み残してきたものが糾弾学習会・同朋三者懇話会である旨を説明。詳細資料も提示され、歴史的経緯から中心問題まで、真正面からおさえて懇切丁寧にお話しいただいた。

質疑応答は「ご門徒から輪廻転生について尋ねられることがあるが」との質疑。小武委員から「輪廻があるかないか」ということではなく、尋ねられた方の具体的な意図がどこにあるのか、ということに引き合って行かねばならない」と応答。

更に質疑が続き、白熱した。

本願・信心 について

第二回目の研修会は、まず佐々木至成委員の提起。信心の問題から往生、更には煩惱と差別の関係にまで及んだ。「信心を頂く」というが、丸ごと信じ込んでしまう

自己満足の頂き方に陥ってしまふ危険がある。如来の願いをどう受け止め、それによって私がどう生まれかわって行くのかということ、と力説。

続いて坂原英見中央相談員の提起。膨大な資料を提示して、同朋運動の初歩から、真俗二諦の問題、そして今日の三者懇まで懇切に説明していただいた。

浄土 についてが全三回の研修会最終会となるテーマ。内容は以下の通り。

最初の提起は、田坂英俊委員。

教区諸行事や、お彼岸と重なり、参加者は少なかった。「あきらめ」を説いてきた実体的浄土の問題点を解説。解放同盟、安芸、備後の相違点や合致点などを、時にはユーモアも交え、ダイナミックに解説。参加者は聞き入った。「歩み」の根拠とする批判原理としての浄土、法爾の概念的世界と捉える意味を解説。その他、「俱会一処」など

最後は毛利慶典委員。いのちの尊厳の象徴的な表現として「浄土」を捉え、私の生きている世界が浄

土から問われていると提起。特に靖国問題を手掛かりに、委員の実体験を通して、極めて具体的な「自分の切実な問題になるプロセス」に、参加者は(否、私は)首をうな垂れた。他、院号取扱いの問題など。

同朋三者懇の内容が教区内に行き届いていない、など、たくさん質疑が出た。



& 活動情報

News

報告

組画再編に向けて

【教区会】去る10月21日、本願寺備後会館にて臨時教区会が召集された。このたびは平成20年度教区一般会計他5つの特別会計の決算が財務議案として上程され承認された。また、法規議案として「教区組画編成等調整委員会規則」他2つの区例案が上程され同じく承認された。今回の組画再編については、まず、組を構成する寺院数に大きな較差(最多寺院数60ヶ寺、最小寺院数5ヶ寺)が生じていることによる問題。昨今の社会環境の著しい変化、国家行政区画との相違等々、対応しきれない要素が多く見られることから、宗門長期計画の重点項目の一環として取り上げられていた。これにより組画再編に向けて動き出す。その他の区令は左記の通り。大遠忌に合わせた各委員会の任期変更がおこなわれる。各種決算の詳細について

は別冊決算書を参照のこと。

〈備後教区組画編成等調整委員会設置規則区令〉

(設置)

第1条 組画編成等調整委員会設置基準条例(平成21年宗達第8号)に基づき、備後教区として、教区編成等基本問題調整委員会による「組画再編成基本概要」を踏まえ、現行の組画編成及び関連する諸問題(以下「組画編成等」という。)について調査検討し、調整を行うため、備後教区組画編成等調整委員会(以下「教区委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 教区委員会は、次の各号に掲げる事項をつかさどる。

一 教区及び組の編成等にかかる基本問題及び検討・調整結果の周知に関すること

二 現状における組の活動、運営実態及び意見等の調査、収集整理及び把握に関すること

三 現況調査に基づく諸問題の検討及び分析に関すること

四 組画編成等にかかる協議、並びに組及び寺院間の調整に関すること

五 前各号のほか、必要なこと(組織)

第3条 教区委員会は、委員若干人で組織する。

2 委員は、教区会議員、組長、

副組長及び僧侶、寺族、門徒その他教務所長が特に必要と認める者のうちから、教務所長が委嘱する。(委員長及び副委員長)

第4条 教区委員会に、委員長及び副委員長各1人を置き、委員のうちから、教務所長が指名する。

2 委員長は、教区委員会を代表し、会務を統理する。

3 副委員長は、委員長を助け、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。(常任委員会)

第5条 教区委員会に、必要に応じて、常任委員会を置くことができる。

2 常任委員会は、委員長及び副委員長、並びに委員のうちから教区委員会で選出された常任委員若干人で組織する。

3 常任委員会は、教区委員会の委任した事項について協議する。(専門部会)

第6条 教区委員会に、その所掌事項を分担処理するため、専門部

会を置くことができる。

2 専門部会の設置及び組織などについては、委員長が教区委員会に諮って決める。

(意見の聴取)

第7条 教区委員会、常任委員会及び専門部会は、必要に応じて、関係者、学識経験のある者又は専門的知識を有する者から意見を聴取することができる。

(招集)

第8条 教区委員会は、教務所長が招集する。

2 教区委員会に、常任委員会又は専門部会が設置された場合には、前項の規定を準用する。

(答申など)

第9条 委員長は、教区委員会の協議及び調整の結果について、教務所長に答申するものとする。

2 教務所長は、前項の規定により答申を受けたときは、速やかに総局に報告するとともに、その推進実施のために必要な措置を講じるものとする。

(経費)

第10条 教区委員会の運営に必要な経費は、教区会計をもって措置する。

(補則)

第11条 この区令の施行について必要な事項は、教務所長が教区委員会に諮って決める。

附 則

- 1 この区令は、教区会の議決を得た日から施行する。
- 2 この区令施行の際現に組画編成等調整委員会設置基準条附則第2項の規定に基づき講じた準備措置は、この区令による措置とみなす。

〈備後教区基幹運動推進委員会委員の任期の調整に関する区令〉

(目的)

第1条 この区令は、教区基幹運動推進委員会委員の任期の調整措置に関する宗達(平成21年宗達第1号)に基づき、親鸞聖人法要修行のため、備後教区基幹運動推進委員会委員(以下「教区委員」という。)の任期の調整を行うことを目的とする。

(任期の調整)

第2条 中央基幹運動推進委員会委員の任期の調整に関する宗則(平成21年宗則第3号)施行の際現に教区委員の職にある者の任期は、備後教区基幹運動推進委員会設置規則(平成15年区令第1号)

第4条第3項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとし、当該期間内に新たに委員に就任した者の任期についてもまた同様とする。

附 則

この区令は、教区会の議決を得た日(平成21年10月21日)から施行する。

第14回平和のつどい

高梁市で平和旋風

【平和のつどい】今年で14回目を迎えた平和のつどい。今年は岡山3組引き受けのもと、成羽総合福祉センターで行われた。講師に



は九州大学非常勤講師の林力さん。『共に、「いのちの尊厳」の回復に向けて』というテーマで講演された。会場が北部のため参加者に心配があったようだが、フタを開けてみると岡山から200名近い数の参加者が集まり、全体で200名を超える盛況ぶりであった。来年は15回目の節目の年となる。現在、記念のつどいとなるよう話し合われている。期待したい。

教区月報 (敬称略)

8月
1日 ブロック仏青連盟

連絡協議会(安芸2日まで)

8日 全国真宗青年のつどい

(富山9日まで)

11日 会館常例法座(川上順之)

12日 会館休館日(16日まで)

19日 門推実習(ビハラの里)

20日 三者懇第1回連続講座

25日 法式法務専門委員会

26日 布教団研修旅行

(種子島・屋久島28日まで)

29日 三次組大遠忌

お待ち受け法要

30日 仏壯連盟夏期研修会

(御調西組法泉寺)

9月
1日 基推門信徒部会

2日 教区報講習会

4日 IT専門委員会

7日 基推広報伝道部会

7日 常備会

8日 勤式練習会

8日 基推同朋部会

8日 三者懇第2回連続講座

8日 連区ビハラ集会

(安芸9日まで)

9日 相愛オーケストラ(広島)

種子島の開教寺院を訪ね



▲中種子島町にある西光寺前にて

【布教団】2年に一度、懇親を含めた研修旅行を行っている教区布教団は8月26日から28日までの2泊3日の予定で屋久島と種子島を訪れる研修旅行を行った。参加したのは宮川宏生団長(教務所長)以下9名の団員。一行は26日に陸路と海路で種子島に渡り、「宇宙センター」を見学。翌27日には種子島にある西光寺(鹿児島教区南島組)へ参拝。上戸秀善住職をはじめ寺族の方々の歓迎を受けた。上戸住職は同寺に入寺し今の伽藍

を再建した。その苦勞談などを聞いた。翌28日は屋久島で「紀元杉」など見学。自然の偉大さや大切さに思いを馳せていた。

「通夜」をテーマに文書布教

▽10月26日役員会を開き「大遠忌記念プロジェクト」として文書布教用のリーフレットを編集、発行することを決めた。このプロジェクトは「現代社会に対応する布教」をテーマとしたもの。シリーズ化し今回のテーマは「通夜」。B5サイズの二つ折りで3万部を発行予定

仏壮活動の現状など学ぶ

【仏壮】教区仏教連盟(石井輝美理事長)の夏期研修会が8月30日、御調西組の法泉寺(小島照行住職)で開かれ、約150人が参加した。講師は仏壮連盟活動推進講師の高橋哲了・安



芸教区妙蓮寺住職。高橋講師は「朋友―心豊かに生きる社会とは」と題して講義。宗門における仏壮活動の現状など紹介しながら、現代社会における仏教壮年の位置づけなど話し、その必要性を語りかけていた。

本山の結成大会へ15名参加

▽去る11月10日、本願寺御影堂において、仏教壮年連盟の結成大会が催された。昨年4月に仏教壮年会議が連盟化となり、壮年会員にとっては念願のその日を迎えることとなった。

全国から総勢で600名を超える参加者で賑わい、その中で備後教区からは15名であった。

今後、今大会を出発点に、本格的に仏壮の活性化が取り組まれていく。



13日	12日	12日	11日	10日	10日	7日	6日	6日	5日	5日	3日	10月	30日	30日	29日	29日	25日	24日	18日	14日	14日	11日	10日				
ブロック基推連絡協議会	(京都16日まで)	大谷本廟大遠忌法要	若婦人大会実行委員会	会館常例法座(小武秀道)	お待ち受け法要	三谿組大遠忌	仏壮連盟結成大会(本山)	組長会	仏婦・寺婦基幹運動研修会	(四州7日まで)	若婦人大会実行委員会	法式法務専門委員会	同朋三者懇(安芸)	ブロック青年布教使研修会	寺婦連盟研修旅行	(京都1日まで)	仏婦常任委員会	(成羽総合福祉センター)	平和のつどい	全国寺青軟式野球大会	三者懇第3回連続講座	寺婦勉強会	IT専門委員会	キッズサンガ推進委員会	連研のための研究会	会館常例法座(栗原一乗)	平和のつどい実行委員会

本山へ参拝し研修旅行

【寺婦】各組から集まった寺族婦人参加者17名が、9月30日から一泊二日で京都・神戸を訪れ研修した。

本願寺では御影堂と阿弥陀堂に参拝。新しくなった御影堂に初めて参拝された方もあり、多くの人から感動の声があがった。また、経蔵や書院、飛雲閣などの文化財を見学。普段見ることのできない本願寺の一面を垣間見ることができ、よい研修となった。その夜は懇親会を行い親睦を深めた。

翌日はお晨朝にお参りし、神戸に移動。神戸では、人と防災未来センターで「阪神淡路大震災」について学習し、改めて震災の悲惨さや神戸復興までの道のりを目に焼き付けた。



不二川総長ご退任慰労会

在任期間は5年8ヶ月



不二川公勝総長ご退任慰労会が10月21日、福山ニューキャッスルホテルを会場に開催された。



会場には109名が集い在任中のご苦勞を慰勞した。

不二川前総長は、2003年、秋の定期宗会において総長指名を受け、総長に就任された。以来5年8カ月に亘り、宗門長期振興計画推進のため邁進された。昨年発行した教区報128号の大遠忌関連特集号では、お忙しい中、取材に応じて頂き、法要への思いを語っていただいた。

総長退任後も顧問として法要円成に向けて多忙な毎日を送っておられる。

予報ーインフォメーション

●「憲法問題」に関する学習会

日時 平成22年1月20日(水)

午後3時～5時

会場 本願寺備後会館

講師 神戸 修先生

大阪芸術大学短期大学部講師

テーマ 「仏教徒にとって平和憲法とは何か」

●僧侶研修会

日時 平成22年2月10日(水)

会場 本願寺備後会館

講師 今井雅晴先生

筑波大学名誉教授

テーマ 未定



(四州14日まで)

勤式練習会

組長研修旅行

(大谷本廟16日まで)

いのちのつながりの集い

(広島市)

ブロック真宗青年のつどい

(安芸18日まで)

同朋三者懇専門委員会

臨時教区会

総長退任慰労会

中・四国仏婦(若婦)大会

(御調東組照源寺25日まで)

布教団役員会

中四国寺青野球大会(四州)

ビハーク活動団体協議会

(三次)

秋期勤式研修会

同朋部会

環境問題学習会

門徒総代会研修会(南部)

門徒総代会研修会(北部)

若婦人大会反省会

会館常例法座(平山智正)

キッズサンガ推進委員会

若婦人大会実行委員会

組画調整委員会

15日 15日 17日 17日 17日 21日 21日 21日 21日 24日 27日 27日 26日 26日 26日 27日 29日 30日 30日 30日 30日 5日 6日 7日 11日 13日 19日 20日

Radio BINGO
お坊さんステーション
FMびんご 77.7メガヘルツ
毎週 月曜日&木曜日
午後6時10分頃

会館常例法座出講者	
12月	真澄 慎一 師 (世羅組善行寺)
2010(平成22)年	
1月	田坂 英尊 師 (芦田組慶照寺)
2月	藤井 義英 師 (比婆組西教寺)
3月	佐々木弘海 師 (鴨川北組照専寺)

生かされているともしらず
愚痴がでる すなおになれず

心に響く
コト言ひ。

ひとり

今後の予定

12月
2日 基推广報伝道部会
4日 仏婦推進者養成研修会
11日 会館常例法座(真澄慎一師)
14日 青年布教使研修会
21日 組長会
28日 午後より宗務納め
1月
8日 宗務初め
11日 会館常例法座(田坂英尊師)
27日 基推門信徒部会
28日 ビハーラ研修協議会

29日 寺婦勉強会
2月
1日 会館休館日(2日まで)
4日 勤式練習会
5日 同朋三者懇話会(尾道)
10日 僧侶研修会
11日 会館常例法座(藤井義英師)
13日 中四国仏壮協議会
(山口 14日まで)
21日 ほほえみ講座
23日 自死を考える学習会
26日 布教団部門別、基幹運動
研修会、臨時総会

お寺の風景



蓮如上人が播州に浄土真宗の教えを広めるため6人のお弟子を派遣しそれぞれがお寺を開いた。播磨六坊とも言われる。その中のお一人祐全が開いたのが、兵庫県たつの市円光寺(真宗大谷派)。
第6代祐仙の弟、頼祐(半三郎)は武芸者として宮本武蔵と交流があり、武蔵は円光寺に滞在し、円明流を門弟たちに指南していた。大伯父頼祐の養子となった祐久は頼祐の弟子より円明流の免許を受け、龍野藩に仕え後に広島藩(安芸・浅野家)に仕えていた。

教化資料BOX

「心に響く言葉」

広報・伝道部会にてこれまで取り組んできた『心に響く言葉』風しゅが完成しました。裏側は80円切手を張ればハガキとして使えるようになっています。

一ヶ寺100部までで、希望により無料配布させていただきます。詳細は教務所までお問い合わせください。



得度許可

おめでとうございます
ございます

〔敬称略〕

比婆組 西楽寺

定光 慧 (大慧)

三次組 東光坊

坂原 英皓 (英皓)

世羅組 明善寺
(平成21年8月11日付)

長岡 海道 (海道)

世羅組 西教寺

曾我 憲真 (憲真)

(平成21年9月15日付)

教師授与

おめでとうございます
ございます

〔敬称略〕

沼隈西組 福照坊

岡部 哲應 (哲應)

芦田組 西円寺

山名 諒子 (真諒)

三次組 常順寺

高樋 一光 (一光)

三次組 福善坊

福藤 淳子 (淳心)

御調束組 金剛寺

金岡 恒宣 (恒宣)

(平成21年8月31日付)

敬弔

お悔やみ申し
上げます

〔敬称略〕

中組 蓮通寺

前坊守 三宅キヨ子

(10月26日寂)

鴨川組 靈巖寺

坊守 龍華壽美枝

(11月8日寂)

三次組 円勝寺

前住職 薮 晃隆

(11月9日寂)

香典返礼

ありがとうございます
ございます

鴨川組 靈巖寺様

三次組 円勝寺様

より香典返礼を頂きました。

年末年始・2月 会館休館日のお知らせ

・12月28日(月) 午後〃

1月7日(木)

・2月1日(月) 〃

2日(火)



先日開催された第55回若婦人会をのぞいた。目を引いたのが会所仏教婦人会の活躍ぶり。お裏方様、他教区の皆さんをお迎えするために、プランターや鉢植えがずらり照源寺境内へ並べられ、色とりどりの花が皆の心を和ませた。何とその数150あまり…。花の少ない季節、聞けば半年以上前より各家庭で分担して花を育てられたとか。そのご苦勞を思うと驚きとともに頭の下がる思いだ▼当日は、若婦人の皆さんはもちろん、多勢の子どもたちの参加も。行事の間、永きにわたってベビーシッター役を買って出られたのも仏婦の皆さん。「孫のお守は数年前に卒業…と思ったけど今日は久々に疲れた〜!」と言いながらも終始ニコニコ顔。影になり日向になり、多くの人々に支えられた大会であった。(K・M)